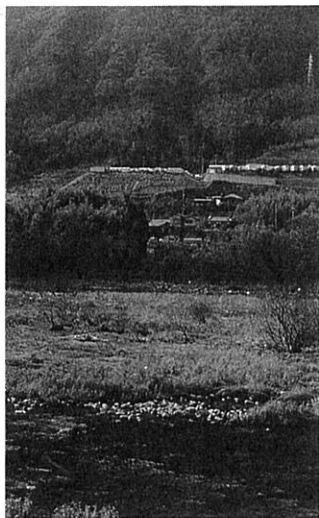


旧河道を流れる中島用水



新川(船入堀付近)



八木の渡し場跡

3 可部から南原及び大林まで

通称「八木の渡し」を過ぎると、街道は再び高宮郡に入る。この八木村渡しは寛永十三年(一六三六)に、下流の城山あたりにあったものを「水深く其上川三筋迄渡へは旅人迷惑仕候」という理由で、現在地に変更したもので、すでに渡し舟が使用されていた。慶安五年(一六五〇)からは船税銀として、年三〇〇目の運上銀を納入している。

城下の楠木渡しが藩の管轄であったのに対し、この渡しは農民による管理で、片道渡し賃は当時五文、日中だけの営業であった。

さて、上陸したところが中野村梁川原で、この地名は、少し上流に幕府への献上用の梁場が設置されていたことによる。街道は自然堤防上の畑地を横切って一路可部町に向かう。途中の微地形と開発の歴史は、太田川の流路変更と関連して複雑である。太田川は、近世初頭まで阿武山を大きく迂回して東進し、根之谷川筋を流路としていた。この頃の洪水で現流路を流れるようになり、これは同時に下流においては、慶長十二年(一六〇七)における古川筋から現流路への変換でもあった。「芸藩通志」の絵図に、中島村が右岸に位置していたり、左岸に八木村領分が残り、旧流路に沿って「カワラケ」の地名が、また隣接する飛郷の町屋村に「小松原」の地名が載るのも、こうした流路変更の名残である。なお、松原新開は、元来藩の御留山であり、松原となっていたが、江戸藩邸焼失の再建用材として伐採され、その跡地を開墾したものである。中島村は寛文六年(一六六六)に開田されたといわれ(佐東町史)、同年に完成した中島用水の恩恵を得て、旧河道の河原や畑地が水田として整備されたのであろう。この用水は「芸藩通志」の絵図には「小水道」と記され、一部は現在国道五四号線の東側を流れている。

ところで、明治三十三年測量の地形図では、旧道は舟付場から三〇〇メートルあまり太田川に沿って北上し、そこから新川沿いに可部の町に入っている。この道は荷車の時代になって新設されたものと考えられ、



袋小路とした旧街道筋



新川(太田川との合流点付近)



船入堀跡(現・明神公園)

渡し場からすぐに可部町に向い、途中で新川を渡る小径が本来の街道筋と考えられる。古老の話では、徒歩の人はこの道をよく利用していたという。ただ、河川改修の結果、これらの大半は河道となり、往年のルートを留めているのは、わずかに堤防から高水敷へ降りる坂道のみである。街道は途中で二間あまりの小川を渡る。この小川が可部町の舟運を担った新川で、町筋南端の人工の溜池、すなわち船入堀と太田川の二〇町を結ぶ艦船専用の人工の水路である。現在は三面コンクリート化され、ほんの一部に昔ながらの河原石の護岸が残っている。太田川の旧河道にあたる凹地に沿って建設されて勾配も緩く、現在は生活排水路の観を呈している。なお、『芸藩通志』の絵図では、この新川は帆待川として根之谷川に通じている。

途中で河戸方面からの道を合流した街道は、ほぼ直線的に船入堀北岸へと向っていた。ところが、現在はこの間に大和重工とJR可部駅が立地しており、かつてのルートはこれらの敷地に取り込まれ完全に消失している。工場内では、通用門から事務所にいたる並木道がちょうど街道筋に相当している。こうした背景があったからであろうか、工場進出後しばらくの間、地元住民はその敷地内を生活道として自由に通行していたという。可部駅の場合、踏切はすぐ南側に移設され、街道の道筋は敷地に隣接して新設された小道が担うかたちとなった。

旧国道と可部駅を結ぶ駅前通りのすぐ南側に、駅の敷地に阻まれて行き止まりといつていいほどの袋小路がある。実に不自然な道であるが、この道こそ先に触れた街道の続きである。当時は船入堀の荷揚場のそばを通っていたのだが、浜の空地に相当していた南側にも現在は民家が密集し、人通りはほとんどなくひっそりとしている。

街道はここからほぼ直角に北に折れ、同時に可部町に入る。その入口、可部の町からみれば南出口正面に位置していたのが船入堀と呼ばれた舟付場である。いわば、舟運で栄えた可部町のターミナルである。昭和二



船入堀へ続いた水路跡



鉄燈籠



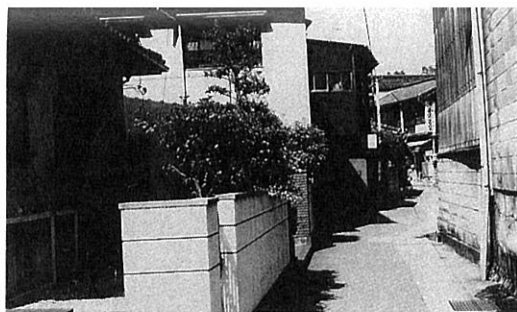
下の浜明神社

十八年頃、大和重工の廃物で埋立てられ、現在は明神公園となっている。この堀が元禄四年（一六九二）以前の何時に開設されたかは不明であるが、「根之谷川ニ続き帆待川の片端ニ船入を掘附」と記録に残る（「可部町史」）。この水面積約一〇〇〇平方メートルの溜池は、米一二石積の船舟五〇艘を収容する内陸の舟付場であった。ただ、水源を用水に依存していたため、常に水量不足に悩まされていたと思われる。大正初期頃には、水量不足を補うために、東を流れる根之谷川に水車を設置し、そこから水路によって導水していた。船溜りの出口には一枚板の堰があり、水路はその堰近くに流れ込んでいた。現在も暗渠にその痕跡を留めている。明け方の出発時間になると堰が外され、その水勢に乗じて、荷物を満載した何艘もの船舟が列をなして一気に新川を下り、太田川へ出ていった。溜池の南側は築堤されており、周囲には六本の松が植えられていた。堤のほぼ中央には通称「キンドロサン」と呼ばれる、可部鋳物産業の技術を駆使して製造された鉄燈籠が置かれていた。これは文化五年（一八〇八）に建造されたもので、舟運の安全を祈願する船持達が寄進したものと伝える。現在、明神公園の中央南側に位置しているが、丁度そのあたりが堤防の中央部に相当している。北岸は荷揚浜として空地となっており、よく材木が積まれたり馬車がとめられていたという。また、東岸には舟運の守護神である下の浜明神社（巖島祠）が鎮座しており、宮島の管弦祭の時期には、この溜池を利用して可部管弦祭が催された。水面に二艘の舟を浮かべ、それに堤灯で飾りたてた櫓を組んで、舞などを披露した。周辺には多くの夜店、屋台などが出店し、夏祭りとして大変賑わったという。地元ではこの祭りを「チンチロピツ」と呼び、子供を論すのに「チンチロピツに連れて行かないゾ」とよく使われていたという。胡子祭、大市とならぶ可部三大祭りの一つで、多くの人の思い出となっている。

可部町の玄関にあたるこの船入堀一带は、藩制時代を通じて「渡り町」と呼ばれ、界限には一里塚・高札場・駅所・御茶屋・高田倉が立地して



辻村屋小路



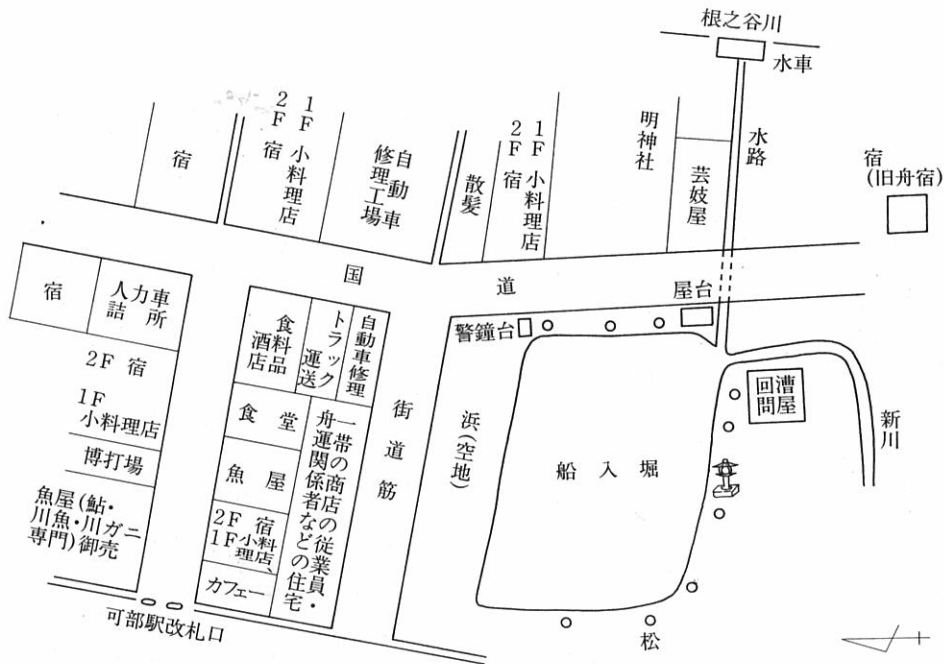
水主町(左)と可部町(右)を分ける小路



J R 可部駅前付近の現在の景観

いた。『芸藩通志』の絵図には、船入堀の水辺に一里塚の二本の松が記され、それに続いて街道の両側に高札場と社倉がある。舟付場から最初の建物、伝馬二〇匹を備える駅所というのも舟運の基地にふさわしい。駅所に隣接して、三反余りの敷地に三棟の建物からなる御茶屋があった。地元では笹木産婦人科あたりがその場所であろうといわれている。御茶屋は公儀役人や参勤交代の大名の宿泊地のほか、藩主の廻村時における休息所に使用された。ただ、後には廃止され、高田郡の蔵物を収納する「高田蔵」が下中野村からこの跡地へ移されている。また、舟運の発展にともなって、享保頃には隣接する上中野村にも関係者の居住地が広がり、渡り町の西側に新たに水主町が出現し、可部町の一部を形成してくる。ここは、古い地割りがそのまま今日まで踏襲されており、自動車も通れない狭い路地が迷路のように交錯している。

ところで、可部の町場の誕生は古い。戦国時代、高松城を本拠とする熊谷氏の庇護のもとに発展した町で、すでに慶長六年(一六〇一)の検地帳には「かべ町屋村」と、また寛永一五年(一六三八)の地詰帳には「可部町」と現われる。根之谷川右岸の自然堤防上を走る一筋の道に沿って発展し、近世前期にはすでに町場は東西五〇間、南北八丁一六間に達していた。街道に面する渡り町・寺町・中ノ町・胡町・上ノ町の五町と、辻村小路、品窮寺小路などの脇筋九小路からなっていた。辻村小路の名称は戦後まで残り、「辻村屋の小路を入れて…」というように使われていたという。品窮寺のある寺町、胡子社のある胡子町、両町に挟まれた中ノ町、町場の北端を占める上ノ町と、それぞれの町名の由来がわかる。これらの町名はその後長期にわたって使用されてきた。そうした視点からすると、当時すでに内陸地となっていた渡り町も、太田川の渡船場を意味すると解すことができる。すなわち、太田川の流路変更以前の渡船場である。一本の直線的な道に沿って町場が形成され、この道が町の南端を流れる旧太田川にでたところが船付場であったと考えられる。流路



昭和初期頃の渡り町商店街 (正木 健夫氏 談)

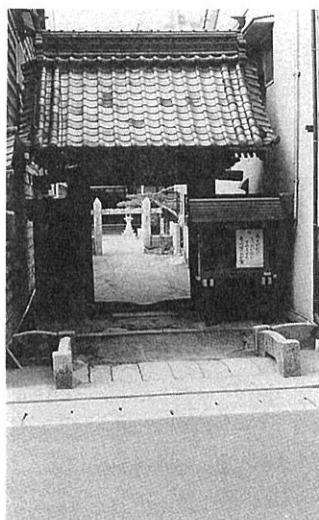
変更後、内陸にとり残されたもの舟付場の地に舟溜りの溜池を掘り、旧河道に残ったわずかな水流を利用して新川を穿ち、旧来の舟運を確保したのであろう。船入堀は旧河道左岸のまさに水際に位置し、行政上は中島村領分で、上陸してからは可部町となっていた。

その後の交通手段の変化にもかかわらず、渡り町のターミナル的機能は引き継がれてゆく。明治三十六年(一九〇三)七月に、わが国初の本格的なバス運行が広島との間で営業を始めたのは有名な話である。その発着駅は船入堀北側の三叉路に、すなわち街道筋と旧国道の交叉点に設けられていた。また、同四十三年(一九一〇)七月に開通した軽便鉄道の可部駅は、堀の北西岸に設置された。鉄道の開通にともない、舟運はしだいに廃れ、大正八年(一九一九)の大洪水を契機に船入堀からの発着は終焉をつけることになり、舟付場は太田川岸へ移設された。

その後、一時期、堀は鮎の養魚場に利用されたことがあるという。昭和二十九(一九三〇)年頃、大和重工の廃物で埋立てられ公園になり、やがて、堀を囲んでいた松も一本を残して枯死してしまい、往年の面影は失せてしまった。ただし、一里塚をしのばせる旧道脇の松は、健在である。

渡り町一帯は可部駅の開設により、駅前商店街として一層の賑いをみせていく。駅と国道を結んで建設された六〇メートルあまりの駅前通りには、カフェや二階を宿泊所とする料理店・食堂・名産の鮎や川ガニ専門の魚屋、酒屋等が軒を連らね、一角には博打場もあった。国道筋には人力車詰所や芸妓屋・旅館・屋台等があり、地元や周辺農村地帯のみならず、舟運関係者・行商人・馬喰達の遊び場として安佐郡最大の歓楽地を形成していた。当時は駅前通りからすぐに可部駅の改札口となっていたという。今日、一帯に飲食店が多く立地しているのも、こうした経過によっている。

船入堀、すなわち、明神児童公園から一〇〇メートルあまり南に行った所に風呂屋旅館がある。つい最近鉄筋の建物に変えたこの旅館は、こ



品窮寺前の石橋



風呂屋旅館



品窮寺

の地で営業を始めて約一〇〇年を経るといわれる。もとは舟運関係者が利用する舟宿であった。当時は銭湯も兼ね、海草を利用した蒸し風呂を備えており、「浜のうむし湯」として有名であった。舟付場が閉鎖されてからは、この銭湯が可部線や路線バスを利用して入湯に来る近郊農村の老人の憩いの場となっていた。田休みの時期には、朝から弁当持参で入湯にきて、二階の大広間で嫁の悪口を話の種に一日中歓談し、夕方に帰っていく人が多かったという。昭和三十年代末に、可部ジャングル温泉をはじめ各地にヘルスセンターができればと、話し相手も少なくなり、利用者は急激に減少していった。今では旅館業のみで、宿名に昔の名残を留めている。

さて、旧国道を北に進むと右手に中川醤油・久保田酒造・増井醤油・上久保酒造と醸造業が集中する。少し離れて酢の醸造元もある。久保田酒造の近代的建物を除いて、古い醸造元の建築様式を残している。正面左手に事務所を配し、右半分の土間には自社の製品が並んでいる。その奥には中庭を隔てて醸造場がある。道路からは薄暗い土間のむこうの光がまぶしい。このあたりで根之谷川が道路に最も接近しており、堤防の石積みも見える。醤油の場合、昭和十十五年頃が最盛期で、旧安佐郡をはじめ山県郡・高田郡まで販路を広げていた。戦後、販売システムの变化にともない、次第に地元への供給へと変わってきたという。品窮寺前の酢の製造元は、長らく閉鎖されているが、建物は往時のままの姿で残っている。盛期には、裏手にある倉の扉をあげ、品窮寺の境内で大樽多数を修繕していたという。

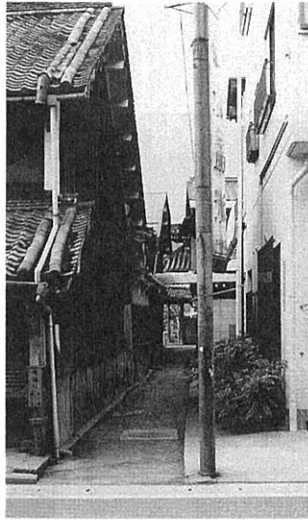
この南側に品窮寺の山門がある。寺伝によれば、この寺は明応元年（一四九二）に現在地に移ってきており、仏護寺十二坊の一つであった。山門の前面、道路に面して太鼓橋状の小さな石橋がある。明治四十四年に架けられたもので、当時はここを小川が流れていた。小川は道路の両側を、ちようど民家の軒下にあたるところを流れていたが、その後家屋に取り



本通筋の現況



旧南原屋敷



寺小路



正明小路

込まれてしまった。側溝とは別のこの溝は、今日まで残っているが、屋外からは見えず、かろうじてこの石橋にその痕跡と位置を知ることができ。なお、本堂は江戸時代中期の遺構をとどめており、境内には経堂・水害碑・岩田万助碑などがある。

下野岩太氏復元の正徳年代（七一―一七二六）の可部町絵図には、往還をはさんで東西六本の小路が記されている。折目までの西側では、水主町に続く中四尺の「辻村屋小路」、品窮寺南側を通る一間幅の「正明小路」、同境内へ通じる七尺幅の「寺小路」、折目手前で四尺幅の「志ようこう小路」である。これらは現在の小路と一致しており、また、可部町全体でも、路地道は町成立当時からものを踏襲している。ビル建設と駐車場により往還筋の変貌が著しいと同様に、これらの小路も急速に昔の面影を失いつつある。

寺小路の入口あたりに、可部唯一の路上の看板がある。今は地酒の三枚の看板が取り付けてあるが、これはかつての映画館のものである。この下の路地を東に入って折れ曲った街裏に、最盛期に三軒を数えた映画館のうちの二軒があった。現在その敷地は住宅と駐車場になっている。

付近の商店は、道路に面した部分は改築によって現代風になっているが、裏側の苔むした瓦と白壁は、昔の商家のたたずまいをそのまま残している。近世を通じて高宮郡の郡本として広い商圈を有し、山間の鉄鋼あるいは瀬戸内の海産物の中継として、また、周辺地域で生産される山繭・煙草など特産品の集散地として栄えてきた証でもある。なかでも、鉄問屋南原屋は、大阪以西を市場にもつ豪商であった。その屋敷が可部農協支所前にある。現在印刷所に利用されているが、南と銘を入れた軒平瓦や土蔵、屋敷を囲う高い土壁は往年の繁栄を物語っている。